事業名

西陣で日本舞踊をはじめよう

実施団体

京文化を味わう会

日本舞踊は世界で評価されている実例はあるものの、実際に日本で日本舞踊が観賞される経験は他の芸術の半分以下という現状があります。公演収入が減ると舞踊人口も減少し、それにしたがって舞踊の際に用いる着物やその他小道具の需要が低下し、着付け師やかつら師の需要も減ってしまい、伝統産業の衰退にもつながってしまいます。そこで、京都の伝統文化を近い世代の若者に紹介しようと試みている学生団体『京文化を味わう会』は西陣織会館にて音羽陽次郎先生、音羽菊寿寿先生、音羽菊寿碧先生、かづら倖さま、上嶋衣裳店さまのご協力のもと、日本舞踊を体験し、実演も観賞でき、日本髪や着物文化の入門講義も受けられる教室を開催することにいたしました。開催前後で参加者の方が西陣織会館の展示や販売コーナーでさらに着物文化に親しんでもらえることも見込まれます。2 日連続の内容で 10 月 3 日・4 日に開催し、参加者の制限はなく、参加費は高校生以下を 500 円、大人は 1000 円(各日)としました。新型コロナウイルス感染症の流行のために不安もありましたがご参加者は 1 日目 13 名(鑑賞のみ 5 名)、2 日目が 11 名(鑑賞のみ 8 名）にお越しいただくことができました。

音羽陽次郎先生によって 1 日目は『越後獅子』、2 日目は『京の四季』の舞踊体験をすることができました。2 日間にわたってかづら倖さまと上嶋衣裳店さまのご厚意により、幼女・20 歳前後の女性、花街の方の髪形や衣装だけでなく連獅子の獅子頭についても実物で学ぶことができました。1 日目は音羽陽次郎先生によって『三番叟』、2 日目は音羽菊寿碧先生によって『浦島』のご実演をしていただきました。休憩時間には舞台衣裳やかづらの説明も職人さんたちに行ってもらいました。浦島では青年から老人へと衣裳の引き抜き（いわゆる早着替え）をする必要があるため、仕掛けのある衣装を着ることになるのですが、この仕掛けの方法や着付けの仕方も上嶋衣裳店さまより解説付きのご実演をしていただきました。

2 日間にわたってのべ 37 名の方に日本舞踊の世界とその基礎となる着物文化について学習することができました。新型コロナウイルス感染症の流行が収まった後はもっと大々的に宣伝をすることにより、若い世代の方々にも西陣織を含めた着物文化、そして日本舞踊などの伝統芸能にもっと親しんでもらえるように努力を続けていきたいと存じます。

舞台衣裳着付けの実演

音羽菊寿碧氏
（衣裳の引き抜き前）

音羽菊寿碧氏
（衣裳の引き抜き後）

舞台衣裳やかづらの展示

舞踊体験の風景